

Ciconia (福井県自然保護センター研究報告) 4:47-53 (1995)

福井県におけるツキノワグマの 捕獲および出現状況 I —1990年度～1993年度—

大迫義人¹

はじめに

大型野生動物の生息状況を明らかにするには、直接観察によって追跡・記録できることが望ましいが、生息密度が低かったり、移動能力が高かったり、または接近が困難である場合、間接的な方法をとらざるを得ない。次善の方法として、発信器を装着するラジオテレメトリー法による追跡調査があり、移動速度、行動範囲について明らかにしてきた（例えば羽澄ほか 1981、野崎・水野 1983、米田 1990）。しかし、多数の個体の捕獲が困難であり、また発信器のバッテリーに寿命があるために、この方法でも不十分である。それを補完するために、狩猟または駆除により捕獲された場所や直接目撃された場所の情報などが役にたつ（例えば富山県農地林務部自然保護課 1989、山形県環境保健部自然保護課 1992、島根県 1993）。

福井県では、ツキノワグマ *Ursus thibetanus* の狩猟および有害獣駆除について捕獲の報告を収集してはいるが、そのまとめや分析を、また出現状況の収集を行なってこなかった。単年度の情報であっても長期にわたって整理しておくと、ツキノワグマの生息状況の変化を明らかにできるであろう。そこで、1990年度から1993年度までの捕獲・出現情報を収集し分析してみた。

なお、この調査は福井県大型野生動物生息動態調査事業のひとつとして行なった。

調査地と方法

調査は、狩猟期間終了後の1994年2月17日～3月24日に、主にアンケートと聞き取りによって行なった。1990年度から1993年度に記録されたツキノワグマの捕獲、出現（目撃、人身事故、交通事故と痕跡）および被害作物の情報に限った。

捕獲状況について福井県獵友会へアンケート（付表1）を送り、回答してもらった。また、捕獲も含め出現状況および被害作物については、福井県下35市町村の鳥獣保護担当者を初め獵師、林業関係者などの動物に詳しい地元住民の計55人に聞き取り調査を行なった。聞き取りの項目は、山形県環境保健部自然保護課（1992）の用いた内容に若干の変更を加えて用いた（付表2）。得られた情報のうち、捕獲・出現地、捕獲・出現時期および被害作

1. 福井県自然保護センター、〒912-01 福井県大野市南六呂師169-11-2

物について整理し分析した。

結果と考察

1. 捕獲・出現地

計202件の情報が収集され、そのうち捕獲が40件（19.8%）、目撃が115件（56.9%）、人身事故が8件（4.0%）、交通事故が3件（1.5%）および痕跡が36件（17.8%）であった。

福井県の北部の坂井郡丸岡町から吉田郡永平寺町、足羽郡美山町、勝山市にかけてと南部のほぼ全市町村での情報が多かった（図1, 2）。中でも、山林面積や人口を考慮しても足羽郡美山町での件数が多かった。この町は、本種による植林木への被害が多く住民の関心が高かったために多くの情報が収集されたと考えられる（美山町 私信）。また、坂井郡三国町、芦原町、春江町、坂井町、南条郡今庄町、丹生郡宮崎村、越廻村、清水町での捕獲・出現情報は無かった。情報漏れと考えられる南条郡今庄町を除くと、これらの市町村は本種の生息環境ではなかったと考えられる。

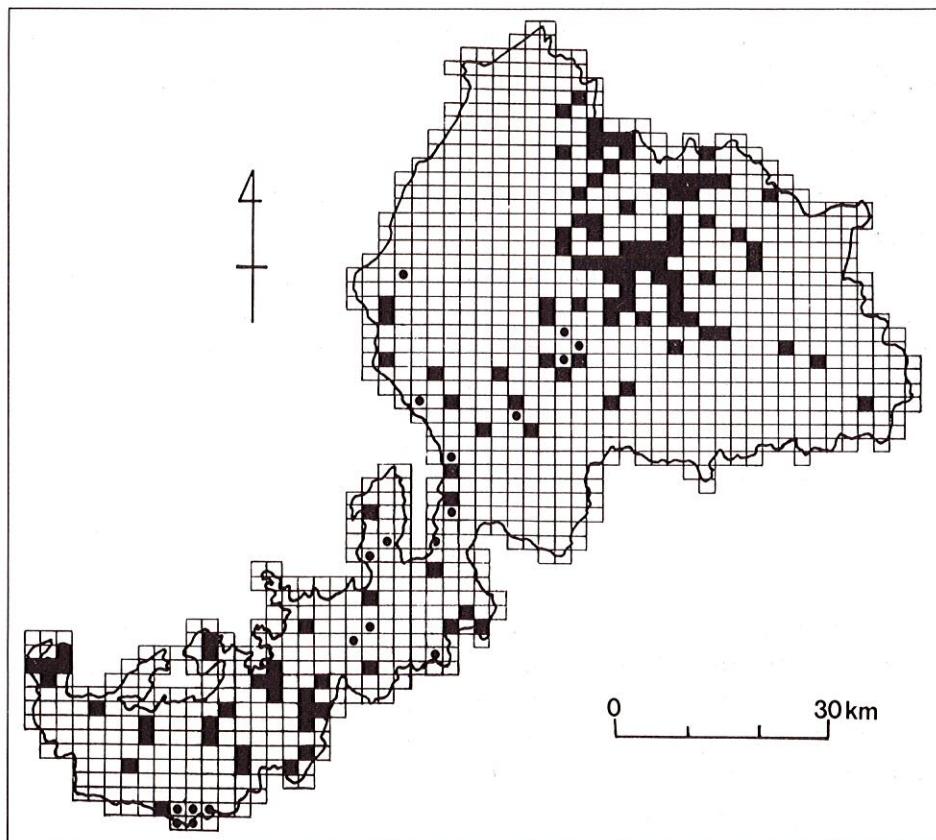


図1. ツキノワグマの捕獲・出現メッシュの分布（1990年度～1993年度）。

■：捕獲・目撃・人身事故・交通事故、●：痕跡。

Fig. 1. Mesh distribution of capture and appearance of Japanese Black Bears (fiscal 1990～fiscal 1993).

■：Capturing, sighting, fatal accident and traffic accident, ●：Field sign.

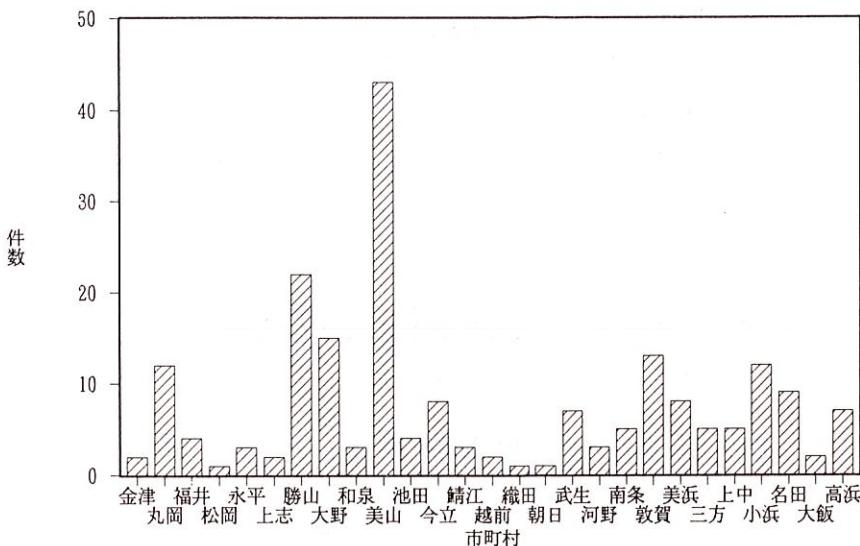


図2. 市町村ごとのツキノワグマの捕獲・出現情報件数（1990年度～1993年度）。

Fig. 2. Case frequency of capture and appearance of Japanese Black Bears (fiscal 1990～fiscal 1993).

今回の情報は、本種の生息分布の一部しか表しておらず、情報の少なかった石川県、岐阜県との境界にある両白山地にも本種は生息していると考えられる。また、南条郡南条町、今庄町での捕獲・出現情報が少なく、福井県においては、ほぼ白山・奥美濃ユニットと近畿北部ユニットに分断されている傾向が示唆される（久米 1994）。得られた情報のうち、探索するという人間の意図が入らない出現情報が80.2%を占めたことは、人間が活動する場所にも本種が接近していることがうかがえる。

2. 捕獲・出現時期

捕獲時期について、計37件の情報があった。3月～5月を除いて本種の捕獲が行なわれていたが、11月15日から翌2月15日までは狩猟により、それ以外の時期は有害獣駆除による捕獲である。最も捕獲件数が多かったのは、1月で16件（43.2%）であった（図3）。これは、本種が穴で冬ごもりしているため狩猟されやすかったためと考えられる。

出現時期について、計118件の情報があった。出現は、9月～11月の秋期に多く、計71件（60.2%）あった（図3）。これは冬ごもりにそなえて本種の摂食行動が活発になるためと考えられる（宮尾 1989）。また、6月～7月にも出現することが多く、計24件（20.3%）あった。これは、クマはぎ発生の一要因と考えられているスギの樹液中の α -ピネンの分泌量が多くなっている時期であり（吉村・福井 1982），目撃や被害が多かったためであろう。

3. 農林作物被害

計30件の農林作物への被害の情報があった。最も多かったのは、カキ *Diospyros kaki*への食害で14件、次いでスギ *Cryptomeria japonica*への皮はぎ（通称クマはぎ）で9件、ハチの巣への食害で4件であった。その他、リンゴ *Malus domestica*、モモ *Prunus vulgaris*、ブドウ *Vitis vinifera*、クリ *Castanea crenata*、クルミ *Juglans mandshurica* var. *sachalinensis*、ウド *Aralia cordata*などの食害の情報があった。岩手県では、胃の内容物の分析調査から、上記の作物以外にトウモロコシ *Zea mays*、ジャガイモ *Solanum tuberosum*、ナシ *Pyrus serotina* var. *culta*、

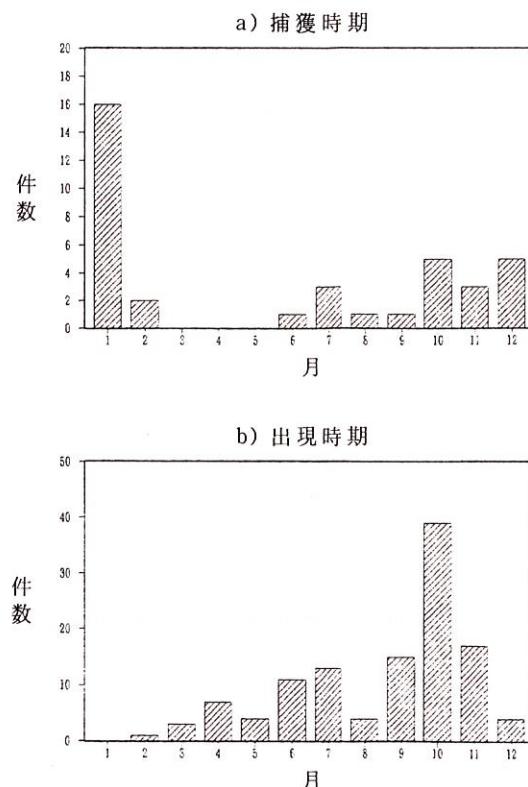


図3. ツキノワグマの捕獲時期と出現時期（1990年度～1993年度）。

Fig. 3. Seasons of capture and appearance of Japanese Black Bears (fiscal 1990 ~ fiscal 1993).

プラム *Prunus domestica* なども報告されており（岩手県環境保健部 1990），本種の食物が人間に依存しつつあることが示唆される。

謝　　辞

福井県獣友会と各市町村の自然保護主幹課および地元の方々には、ツキノワグマの捕獲・出現情報についてアンケートまたは聞き取り調査に回答・協力していただいた。京都大学野生生物研究会の平野晃史、松原始、白井伸侍、西川完途、井上明人君らには調査を手伝っていただいた。ここに記して感謝する。

要　　約

1994年に、1990年度～1993年度のツキノワグマの捕獲と出現（目撃、人身事故、交通事故と痕跡）の情報について、アンケートまたは聞き取り調査を行なった。40件の捕獲（19.8%）、115件の目撃（56.9%）、8件の人身事故（4.0%）、3件の交通事故（1.5%）および36件の痕跡（17.8%）の計202件の情報が収集された。本種は、福井県の山間部を中心に捕獲されたり出現していたが、足羽郡美山町での情報が多かった。最も捕獲件数が多かった

時期は、1月で16件（43.2%）であった。最も出現件数の多かった時期は、冬ごもりに備える9月～11月の秋期（60.8%）とクマはぎの発生する6月～7月の夏期（20.3%）であった。農林作物への被害としてスギへの皮はぎ、カキ、ハチの巣への食害が多かった。出現状況や農林作物への被害から、本種が人間生活に接近して生息していることがうかがえる。

引用文献

- 羽澄俊裕・丸山直樹・野崎英吉・吉林賢恒・渡辺弘之. 1981. 栃木県表日光におけるツキノワグマのテレメトリー追跡. 哺乳類 8(6):191-193.
- 岩手県環境保健部. 1990. ニホンツキノワグマ生息実態調査報告書（昭和62年度～平成元年度）. 149pp. 岩手県.
- 久米英行. 1994. クマ類の生息実態緊急調査の結果について. 野生生物保護行政 No.4,5: 10-22.
- 野崎英吉・水野昭憲. 1983. ツキノワグマの行動域と日周期活動（尾添川流域における例）. 白山自然保護センター研究報告 9:77-83.
- 米田一彦. 1990. 秋田県太平山地域におけるツキノワグマの生態・テレメトリー調査. 人間活動との共存を目指した野生鳥獣の保護管理に関する基礎的研究（環境庁自然保護局編）：159-206.
- 宮尾嶽雄（編）. 1989. ツキノワグマ 追われる森の住人. 217pp. 信濃毎日新聞社. 長野.
- 島根県. 1993. 島根県におけるツキノワグマの生息状況調査報告書. 28pp. 島根県.
- 富山県農地林務部自然保護課. 1989. クマ生息数調査報告書. 47pp. 富山県.
- 山形県環境保健部自然保護課. 1992. ニホンツキノワグマ生息状況調査報告書 昭和62年度～平成3年度. 58pp. 山形県.
- 吉村健次郎・福井宏至. 1982. ニホンツキノワグマによる森林の被害と防除に関する研究－クマハギ被害の実態と樹皮に含まれる α -pineneに対するクマ類の反応について－. 京大演報 54:1-15.

Capture and appearance of Japanese Black Bears in Fukui I -Data from fiscal 1990 to fiscal 1993-

Yoshito Ohsako¹

The status of capture and appearance of Japanese Black Bears from fiscal 1990 to fiscal 1993 was studied by questionnaire and hearing in 1994 in Fukui. A total of 202 informations was collected: capturings (19.8%), sightings (56.9%), fatal accidents (4.0%), traffic accidents (1.5%) and field signs (17.8%). The informations of bears were recorded in the mountainous area of Fukui, especially in Miyama Town, Asuwa County. The majority of bears was captured in January and was observed in September-November and June-July. Japanese Cedars, Kakis and beehives were damaged by bears. The informations suggest that bears wander around human residences.

1. Fukui Nature Conservation Center. Minamirokuroshi 169-11-2, Ono-shi, Fukui 912-01

付表1. ツキノワグマ捕獲アンケート。

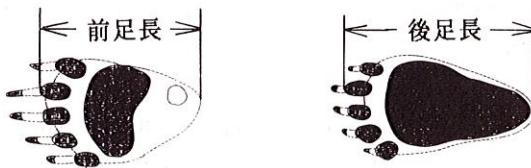
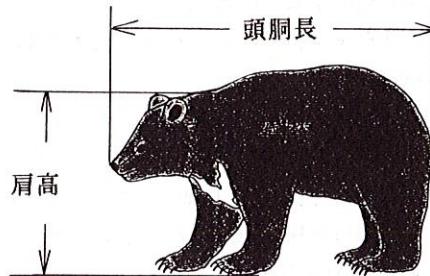
Appendix 1. A questionnaire form on capture of Japanese Black Bears.

ツキノワグマ捕獲アンケート

		整理番号
回答者氏名		
住 所	福井県	
捕獲年月日	199 年 月 日	捕獲場所
捕獲方法	銃獵 箱ワナ その他	
捕獲時の状況	単独 子連れ 親連れ	越冬穴で 山中で 集落で
	その他	

計測値（可能な範囲でお答え下さい）

推定年齢 才
 性別 オス メス 不明
 体重 kg
 頭胴長 cm
 肩高 cm
 前足長 cm
 後足長 cm



※捕獲個体 1頭ずつ、ご回答願います。

※このアンケートは、各林業事務所または自然保護センターへご提出下さい。

※可能であれば、年齢判定のために犬歯または頭骨を自然保護センターへ供出願います。連絡頂ければ、引き取りにうかがいます。

※不明な点は、自然保護センター（大迫）までお問合せ下さい。

〒912-01 大野市南六呂師 福井県自然保護センター

TEL 0779-67-1655

ご協力有難うございました。

付表2. ツキノワグマ出現記録表。

Appendix 2. A hearing form on appearance of Japanese Black Bears.

ツキノワグマ出現記録表

目撃・痕跡確認者

氏名

住所

Tel

※以下を記入し、地図を添付願います。

出現年月日時	199 年 月 日、 時 分
天候 :	
出現場所	福井県 郡・市 町・村 (出現地や移動方向について地図に記入願います)
出現頭数	頭 (うち成獣 頭、 幼獣 頭)
出現個体の大きさ	特大・大・中・小 (目測で体重約 kg、 頭胴長約 cm)
その他の形態的特徴	
出現個体の行動	移動・採食・休息・木に登っていた・ その他
被害物	

捕獲された場合は捕獲アンケートにも回答願います。

